湖東・湖北
毎月第３日曜日発行
2026 11月号 Vol.204
毎日ナビ
毎日新聞湖北ブロック会　協賛
湖北ブロック会事務局（毎日新聞彦根城東販売所）
滋賀県彦根市地蔵町 120-105　TEL.0749-26-9673
制作／オフィスいしやま（毎日新聞大津販売）
発行／毎日新聞社大阪販売三部

湖東

彦根

消費者と農家の隙間 "Umel" JA東びわこ 直売所一新

JA東びわこは、彦根市石寺町の湖岸道路沿いに「Umel STAND（ウメルスタンド）」をオープンした。「消費者と農家の隙間（すきま）を埋める」をコンセプトにしたWEBマガジン「Umel（ウメル）」と連動。特産品や加工品の販売、新米の試食会、収穫体験などを展開していく。

直売所だった「美浜館」（約100平方メートル）を全面改装した。周囲の鮮やかな芝生、木造カフェ風の店内、農作業をPRする電子看板などが目を引く。彦根梨の販売コーナーでは、吉田勝・生産組合長へのインタビューをパネルで紹介。「お尻と頭、どちらが甘い？」「梨づくりで一番大切にしていることは？」などのQ&Aを掲示している。併設のキッチンカーではサイダーやスムージー、かき氷といった梨加工品も味わえる。

【彦根通信部・伊藤信司】
（毎日新聞10月7日）



「農」へのタッチを「農」する運営スタッフ

湖北

長浜

累計来街者6000万人 黒壁スクエア



記念品を受け取る刀称桃子さん（左から2人目）と小鍛治望さん（左端）

長浜市の中心市街地にある県内有数の観光拠点「黒壁スクエア」が10月13日、中核施設「黒壁ガラス館」開館の1989年7月以来、累計来街者数6000万人を達成した。6000万人目となった福井市の刀称桃子さんと小鍛治望さんに、記念セレモニーで黒壁オリジナルのガラス花瓶と花束が贈られた。2人は高校時代の同級生で、刀称さんは「月に2回は黒壁に来ている。長浜にはおしゃれなスポットがいっぱい。これからも通います」、小鍛治さんは「黒壁は活気がある。今度は子どもと来たい」と笑顔で話した。

寺田康次社長はセレモニーで「日本の人口は減少するが、世界には来てもらえる可能性のあるゲストがたくさんいる。20年後に1億人目のゲストを迎えたい」などと英語でスピーチした。

【長浜通信部・長谷川隆広】
（毎日新聞10月14日）

27年ぶり長浜で大相撲 地元ゆかり朝翠龍関ら

長浜



朝翠龍関（2人目）らの相撲を見せる上位力士（右から2人目）

大相撲秋巡業の「長浜場所」が10月15日、長浜市田村町の県民共済ドーム長浜で開かれた。長浜での開催は27年ぶり。約5000人の観客が力士との触れ合いを楽しんだり、取組に声援を送ったりした。

横綱・大の里関や豊昇龍関、元県立長浜養護学校教員の朝翠龍（あさすいりゅう）関ら力士約100人が参加。取組前には、公開稽古（げいこ）や髪結いの実演、相撲の禁じ手などをユーモラスに紹介する初切（しょっきり）などが披露された。

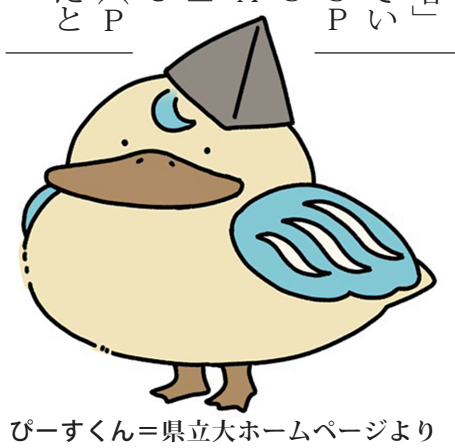
子ども相撲では、大の里関がちびっこ力士の相手をする場面も見られた。横綱に挑んだ長浜南小4年の橋本淑年（よしとし）さんは「緊張した。すごい筋肉質で硬かった。押せる感じがしなかった。将来大相撲で相撲を取りたい」と話した。

【長浜通信部・長谷川隆広】
（毎日新聞10月16日）

名前は「ぴーすくん」 県立大 公式キャラ決定

彦根

県立大（彦根市八坂町）の公式キャラクターのデザインが決まった。名前は「ぴーすくん」。広報誌や各種イベント、交流サイト（SNS）などに今後登場する予定だ。作者は人間文化学部生活デザイン学科の卒業生、有井うららさん。水鳥をイメージし、学内にそびえる「えんぴつ塔」に似た三角帽子をかぶっている。大学の英語略称「USP（THE UNIVERSITY OF SHIGA PREFECTURE）」を逆にしてP（ぴー）SU（す）と名付けた。平和（PEACE）の意味も込めたという。



ぴーすくん＝県立大ホームページより

開学30周年を迎えた昨年度末、全国から図案を募集し計264件が寄せられた。1次選考を通過した29件の中から学生、教職員らが投票し、学内選考委員会で最終決定した。

【彦根通信部・伊藤信司】
（毎日新聞10月22日）